2027年３月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年８月10日

上場会社名　　株式会社フォーバル　　上場取引所　東
コード番号　　8275　　ＵＲＬ https://www.forval.co.jp
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）中島　将典
問合せ先責任者　（役職名）常務執行役員グループ財務戦略統括部長　（氏名）赤井　祐貴　　ＴＥＬ　03-3498-1541

配当支払開始予定日　　－
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第１四半期の連結業績（2026年４月１日～2026年６月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期第１四半期	16,865	5.4	344	67.4	444	80.3	115	79.3
2026年３月期第１四半期	15,998	1.1	205	△54.5	246	△53.9	64	△66.9

（注）包括利益　2027年３月期第１四半期　307百万円（298.5%）　2026年３月期第１四半期　77百万円（△72.9%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期第１四半期	4.44	－
2026年３月期第１四半期	2.48	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期第１四半期	38,159	20,796	48.2
2026年３月期	41,831	21,393	45.2

（参考）自己資本　2027年３月期第１四半期　18,389百万円　2026年３月期　18,914百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	－	0.00	－	31.00	31.00
2027年３月期	－				
2027年３月期（予想）		0.00	－	32.00	32.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	77,000	7.7	4,100	10.1	4,300	6.3	2,200	48.9	84.25

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

新規　－社　（社名）　　、除外　－社　（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：無
②　①以外の会計方針の変更	：無
③　会計上の見積りの変更	：無
④　修正再表示	：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期１Ｑ	27,732,622株	2026年３月期	27,732,622株
②　期末自己株式数	2027年３月期１Ｑ	1,619,232株	2026年３月期	1,619,157株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2027年３月期１Ｑ	26,113,464株	2026年３月期１Ｑ	26,044,638株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料Ｐ．３「１．経営成績等の概況（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期の経営成績の概況…… 2
（２）当四半期の財政状態の概況…… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書 …… 6
四半期連結包括利益計算書 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（セグメント情報等の注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）…… 10
（継続企業の前提に関する注記） …… 10
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）…… 10

１．経営成績等の概況

（１）当四半期の経営成績の概況

当第１四半期連結累計期間におけるわが国経済は、原油高や海上輸送網の混乱により一部に弱めの動きがみられるものの設備投資は堅調に推移し、輸出や鉱工業生産も横ばいでの動きとなっています。また、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費は物価上昇の影響を受けつつも堅調に推移しました。

当社グループの事業領域である情報通信分野においては、クラウドやビッグデータ、ＩｏＴ、ＡＩなどを活用したサービスが拡大しています。

このような経営環境下、当社グループは「企業ドクター（次世代経営コンサルタント）」として企業経営を支援する集団となり、中小・小規模企業の利益に貢献することを目指し、「情報通信の知識・技術を駆使した経営コンサルティングサービス（情報通信）」、「海外マーケットを独自ノウハウで取り込む経営コンサルティングサービス（海外）」、「環境に配慮した最先端の経営コンサルティングサービス（環境）」、「次世代経営に必要な人材を育てる経営コンサルティングサービス（人材・教育）」、「企業のライフサイクルに対応した経営コンサルティングサービス（起業・事業承継）」の５分野において他社との差別化を図り、質の高いサービスを提供するためにＭ＆Ａも活用しながら事業の拡大に取り組んでいます。

現在は、国の経済財政運営と改革の基本方針2026「責任ある積極財政」元年～日本の挑戦を起動する！～に則ってF-Japan戦略を推進し、骨太方針の中でも特に「ＡＸ／ＤＸの推進」「ＧＸの強化」「強い地域経済の構築」「人材力の強化・人材総活躍」に着目し、自治体・民間企業・教育機関・金融機関と連携し、地域経済活性化のためのＤＸ・ＧＸ促進に取り組んでいます。

地方自治体の運営を取り巻く環境は大きく変化しており、活力ある地方を取り戻すためには、地域の産業を復興し住民の生活の質を向上させ地域としての魅力を高めていく必要があります。そのためには、デジタルを活用した行政サービスを提供していくことが必須となっており、国もその実現に向けて全面的に支援しています。

当社グループが注力しているF-Japan戦略は日本全国でＤＸ・ＧＸ人材を育て、その人材が地元経済を活性化させるという好循環が永続的な地方創生を実現するのに不可欠であると考えており、その実現に向けて各地方自治体における「ＤＸ・ＧＸ人材の育成」「ＤＸ・ＧＸ人材の就職・起業」「ＤＸ・ＧＸ人材による地域経済の活性化」の仕組みづくりを、デジタル人材を派遣し、現状や課題を可視化しながら伴走支援しています。

さらには、人材を費用・コストとして捉えるのではなく、その人が持つ能力やスキルを資本として捉え、その価値を最大限に引き出すことで企業価値の向上につなげる「人的資本経営」をはじめとした「ＥＳＧ経営」が長期的な成長に欠かせない重要な要素となる中で、次世代型のデータ活用により新たな価値を共創する経営情報分析プラットフォーム「きづなＰＡＲＫ」で財務や非財務などの経営情報を可視化しながら中小・小規模企業の「ＥＳＧ経営」を伴走支援しています。

このような状況下、当社グループの当第１四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のようになりました。

当第１四半期連結累計期間の経営成績は、ＤＸ推進の機運の高まりを受けて企業ドクターによる可視化伴走経営支援事業が堅調に推移したほか、電力サービスなどが増加した結果、売上高は前年同期に比べ866百万円増加し、16,865百万円（前年同期比5.4%増）となりました。

利益面では売上総利益が前年同期に比べ419百万円増加（前年同期比7.0%増）したのに対し、販売費及び一般管理費は成長戦略に必要な人員増強や情報処理費、旅費交通費などを増やした一方で、その他の経費を抑えたことで前年同期に比べ280百万円増加（前年同期比4.9%増）にとどめた結果、営業利益は344百万円（前年同期比67.4%増）、経常利益は444百万円（前年同期比80.3%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は115百万円（前年同期比79.3%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、「２．四半期連結財務諸表及び主な注記（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等の注記）」に記載のとおり、当第１四半期連結累計期間より、報告セグメントの区分を変更しております。以下の前年同期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

＜企業ドクターグループ＞

企業ドクターによる可視化伴走経営支援事業が堅調に推移したことで㈱フォーバルや㈱Meisinの売上が増加した結果、売上高は8,659百万円（前年同期比5.3%増）、セグメント利益は187百万円（前年同期はセグメント損失33百万円）となりました。

＜ビジネスソリューショングループ＞

電力サービスが増加した一方で太陽光システムなどが減少した結果、売上高は8,205百万円（前年同期比5.6%増）、セグメント利益は154百万円（前年同期比36.0%減）となりました。

（２）当四半期の財政状態の概況

当第１四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ3,672百万円減少し38,159百万円となりました。

流動資産は25,744百万円となり、前連結会計年度末比3,168百万円の減少となりました。これは主として現金及び預金の減少841百万円、受取手形、売掛金及び契約資産の減少2,418百万円によるものです。

固定資産は12,415百万円となり、前連結会計年度末比503百万円の減少となりました。これは主としてのれんの償却による無形固定資産の減少107百万円、繰延税金資産の減少等による投資その他の資産の減少381百万円によるものです。

流動負債は14,018百万円となり、前連結会計年度末比2,994百万円の減少となりました。これは主として支払手形及び買掛金の減少1,408百万円、未払法人税等の減少619百万円、賞与引当金の減少561百万円によるものです。

固定負債は3,344百万円となり、前連結会計年度末比80百万円の減少となりました。これは主として長期借入金の減少43百万円、持分法適用に伴う負債の減少48百万円によるものです。

純資産は20,796百万円となり、前連結会計年度末比597百万円の減少となりました。これは主として親会社株主に帰属する四半期純利益115百万円に対し、配当金の支払い809百万円により株主資本が690百万円減少したことによるものです。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績は現時点で概ね想定した範囲内で推移しており、2026年５月15日に公表しました連結業績予想に変更はありません。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （2026年６月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,427,108	11,585,797
受取手形、売掛金及び契約資産	10,624,811	8,206,227
リース投資資産	879,280	826,910
商品及び製品	999,894	1,028,676
仕掛品	66,687	96,567
原材料及び貯蔵品	635,242	683,307
未収入金	1,738,136	1,683,416
その他	1,704,353	1,817,049
貸倒引当金	△162,646	△183,525
流動資産合計	28,912,869	25,744,426
固定資産		
有形固定資産	2,642,253	2,627,631
無形固定資産		
のれん	2,553,261	2,432,725
その他	1,450,068	1,463,283
無形固定資産合計	4,003,329	3,896,008
投資その他の資産		
投資有価証券	2,368,001	2,519,230
破産更生債権等	301,107	305,421
繰延税金資産	1,436,812	1,250,243
その他	2,626,711	2,279,478
貸倒引当金	△459,236	△462,968
投資その他の資産合計	6,273,396	5,891,404
固定資産合計	12,918,979	12,415,044
資産合計	41,831,848	38,159,470
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,246,039	5,837,463
短期借入金	1,205,144	1,200,746
未払金	2,663,599	2,536,149
未払法人税等	808,264	188,621
賞与引当金	974,669	413,338
役員賞与引当金	264,914	79,031
リース債務	367,451	360,147
その他	3,483,427	3,403,426
流動負債合計	17,013,510	14,018,925
固定負債		
長期借入金	602,721	559,393
退職給付に係る負債	2,439,551	2,468,930
役員退職慰労引当金	15,450	15,450
リース債務	178,317	165,043
繰延税金負債	17,309	19,625
持分法適用に伴う負債	48,146	－
その他	123,540	115,922
固定負債合計	3,425,037	3,344,365
負債合計	20,438,547	17,363,290

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当第１四半期連結会計期間 （2026年６月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,150,294	4,150,294
資本剰余金	3,317,476	3,317,502
利益剰余金	11,864,553	11,174,458
自己株式	△1,065,965	△1,065,965
株主資本合計	18,266,358	17,576,290
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	383,134	544,505
為替換算調整勘定	84,353	95,899
退職給付に係る調整累計額	180,310	173,048
その他の包括利益累計額合計	647,798	813,452
非支配株主持分	2,479,144	2,406,437
純資産合計	21,393,301	20,796,180
負債純資産合計	41,831,848	38,159,470

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年６月30日）
売上高	15,998,505	16,865,148
売上原価	10,037,275	10,484,541
売上総利益	5,961,230	6,380,606
販売費及び一般管理費	5,755,582	6,036,292
営業利益	205,648	344,313
営業外収益		
受取利息	784	1,190
受取配当金	12,564	13,353
持分法による投資利益	28,990	64,908
その他	23,491	30,147
営業外収益合計	65,830	109,599
営業外費用		
支払利息	9,218	7,529
為替差損	12,412	－
その他	3,551	2,339
営業外費用合計	25,181	9,868
経常利益	246,297	444,044
特別利益		
抱合せ株式消滅差益	33,092	－
固定資産売却益	1,354	441
投資有価証券売却益	634	3,260
特別利益合計	35,081	3,701
特別損失		
減損損失	153	－
固定資産除売却損	2,878	0
投資有価証券評価損	－	702
特別損失合計	3,031	702
税金等調整前四半期純利益	278,347	447,043
法人税、住民税及び事業税	65,240	127,899
法人税等調整額	52,039	177,650
法人税等合計	117,279	305,549
四半期純利益	161,067	141,493
非支配株主に帰属する四半期純利益	96,436	25,606
親会社株主に帰属する四半期純利益	64,630	115,887

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年６月30日）
四半期純利益	161,067	141,493
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△61,008	161,370
退職給付に係る調整額	3,338	△7,262
持分法適用会社に対する持分相当額	△26,326	11,546
その他の包括利益合計	△83,996	165,654
四半期包括利益	77,070	307,148
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△29,752	281,542
非支配株主に係る四半期包括利益	106,823	25,606

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第１四半期連結累計期間（自　2025年４月１日 至　2025年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注１）	四半期連結損益計算書計上額（注２）
	企業ドクターグループ	ビジネスソリューショングループ	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	8,149,251	7,772,320	15,921,572	－	15,921,572
その他収益	76,933	－	76,933	－	76,933
外部顧客への売上高	8,226,184	7,772,320	15,998,505	－	15,998,505
セグメント間の内部売上高又は振替高	135,151	703,535	838,686	△838,686	－
計	8,361,336	8,475,856	16,837,192	△838,686	15,998,505
セグメント利益又は損失（△）	△33,712	241,740	208,028	△2,379	205,648

（注）１．セグメント利益又は損失（△）の調整額△2,379千円は、セグメント間取引消去であります。

２．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「企業ドクターグループ」セグメントにおいて、㈱テレクトの株式を取得し、当第１四半期連結累計期間より連結範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、当第１四半期連結累計期間においては412,238千円であります。

Ⅱ　当第１四半期連結累計期間（自　2026年４月１日 至　2026年６月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額（注１）	四半期連結損益計算書計上額（注２）
	企業ドクターグループ	ビジネスソリューショングループ	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	8,571,405	8,205,793	16,777,198	－	16,777,198
その他収益	87,949	－	87,949	－	87,949
外部顧客への売上高	8,659,354	8,205,793	16,865,148	－	16,865,148
セグメント間の内部売上高又は振替高	180,657	707,244	887,902	△887,902	－
計	8,840,011	8,913,038	17,753,050	△887,902	16,865,148
セグメント利益	187,188	154,744	341,933	2,380	344,313

（注）１．セグメント利益の調整額2,380千円は、セグメント間取引消去であります。

２．セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

当第１四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を従来の「フォーバルビジネスグループ」「フォーバルテレコムビジネスグループ」「総合環境コンサルティングビジネスグループ」「人的資本経営」の４区分から「企業ドクターグループ」「ビジネスソリューショングループ」の２区分に変更いたしました。

この変更は、当社グループにおける経営管理及び業績管理の実態をより適切に反映するため、経営管理区分の見直しを行ったことによるものであります。

なお、前第１四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを開示しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）
該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）
該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）
当第１四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第１四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第１四半期連結累計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年６月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年６月30日）
減価償却費	402,608千円	432,294千円
のれんの償却額	120,327千円	120,536千円